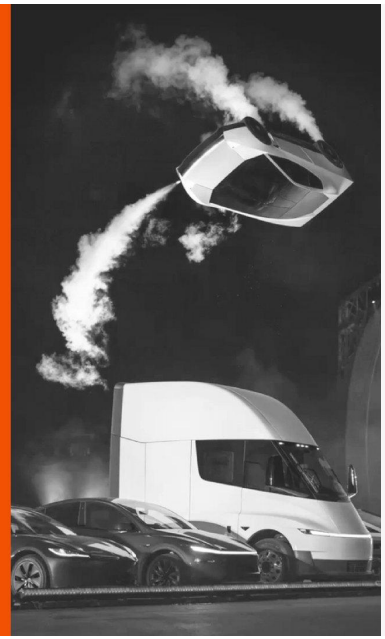
NEWTRAL.INC- REFRAME 2026

地域に
必要とされる公民館
とするために



TODAY'S FIRST QUESTION

あなたの公民館は
誰に必要とされてますか？

CONTENTS

1. 「必要とされる」とは？
2. 松川村の事例から
3. 手放す
4. これから





SELF INTRODUCTION

松本 寿治

Since 1983-
柳田國男的 広義のデザイナー

デザイン×社会教育×経営×デジタル・AI

大阪府出身。新卒で株式会社乃村工藝社入社。
展示・ショールームイベントなどの空間ディスプレイ領域におけるディレクション業務に従事。

その後、家業の町工場を事業承継。
年商 3,800 万円から 1 億円へと成長させる。また、経営の傍らデザインを学び直す。

コロナ禍を期に長野県松川村へ移住。
地域おこし協力隊として公民館を拠点とした地域活性化 PJ を担当。

活動拠点となった松川村公民館は文部科学大臣表彰「第 77 回優良公民館表彰」を受賞。

2024 年に株式会社 Newtral. を創業。
「地域でやりたいことをやりたいように、そんな人がたくさんいる社会を」をビジョンに、地域の事業者を対象とした伴走型デザイン支援を展開。
ブランディング、マーケティング、Web 制作、DX ツール開発・AI 活用 .etc、経営・デザイン・テクノロジーを横断して事業づくりを支援している。

また、自治体や商工会議所などで、生成 AI や、社会教育に関する講師・登壇など活動領域は多岐にわたる。
2026 年より松川村議会議員。
社会教育士・防災士、きのこ・猟友会 .etc

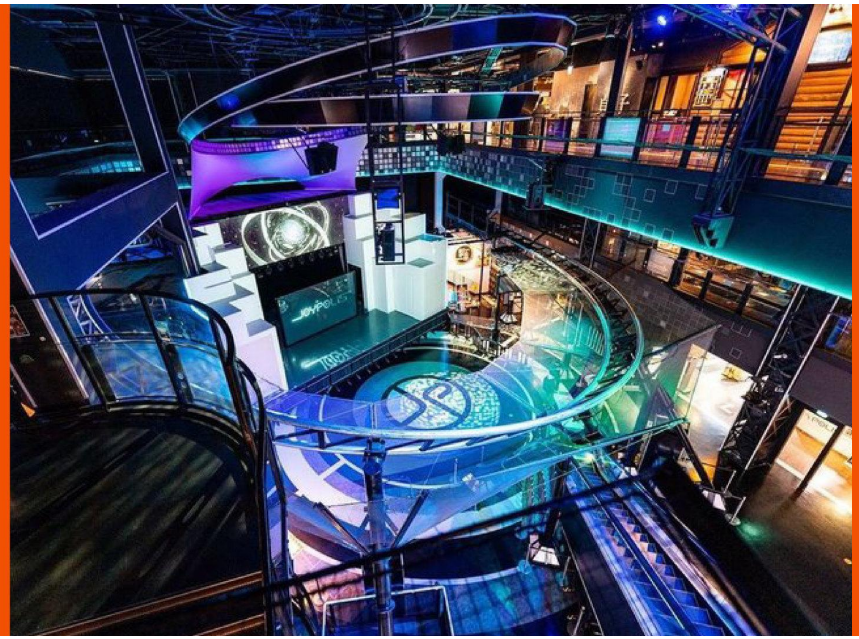
他、松川小学校 PTA 会長
長野県まちむら寄り添いファシリテーター

PHASE 01
空間

PHASE 02
家業承継
+ 学び直し

PHASE 03
移住
公民館

PHASE 04
起業
議員

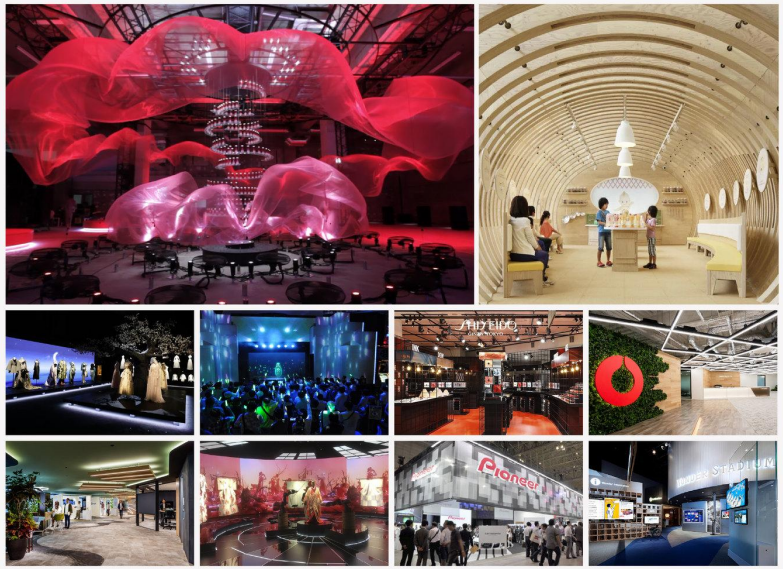


PHASE 01
空間

PHASE 02
家業承継
+ 学び直し

PHASE 03
移住
公民館

PHASE 04
起業
議員

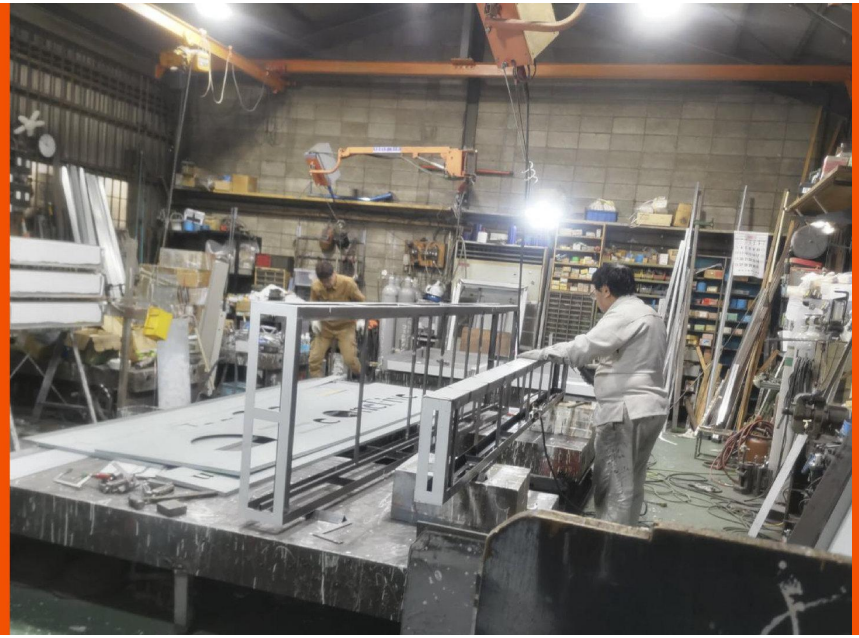


PHASE 01
空間

PHASE 02
家業承継
+ 学び直し

PHASE 03
移住
公民館

PHASE 04
起業
議員

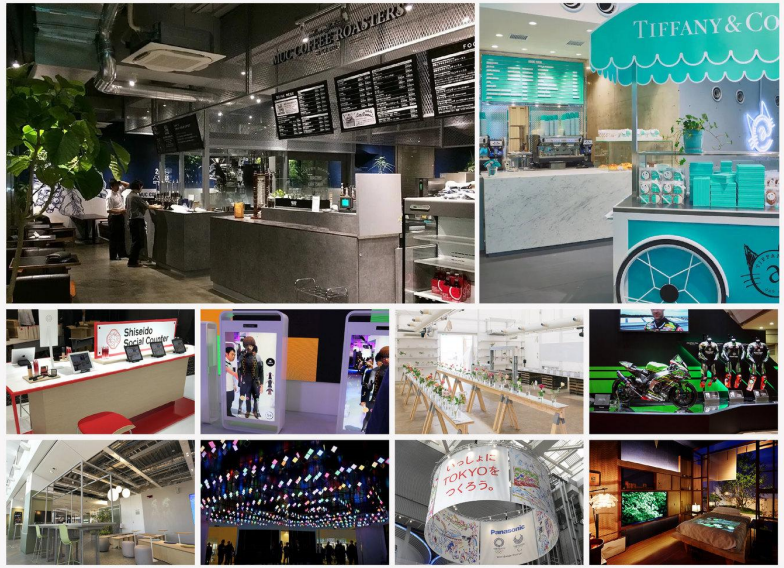


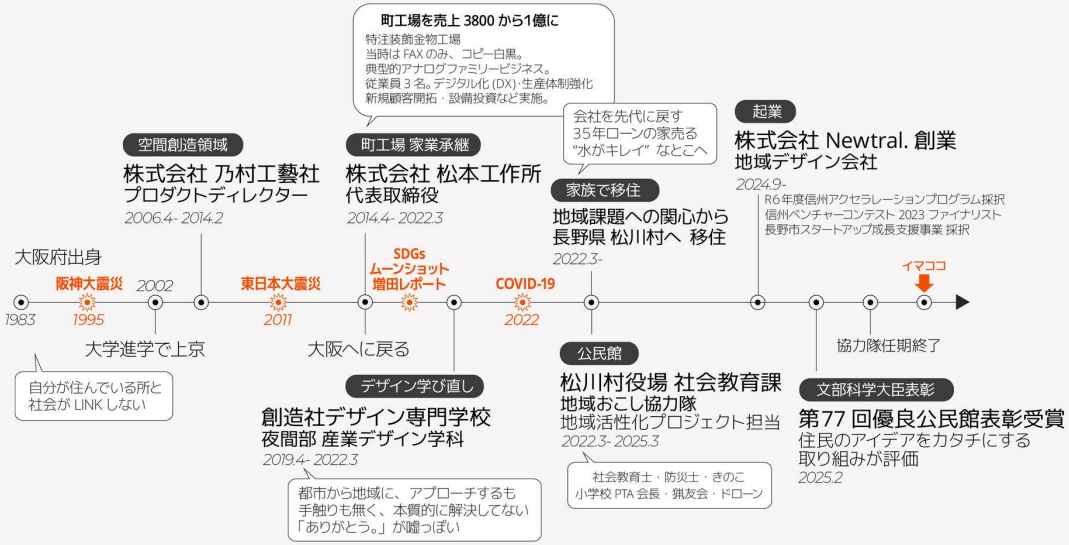
PHASE 01
空間

PHASE 02
家業承継
+ 学び直し

PHASE 03
移住
公民館

PHASE 04
起業
議員





Why did you decide to relocate?

都市から地域課題をやっても もらう「ありがとう。」が嘘っぽい











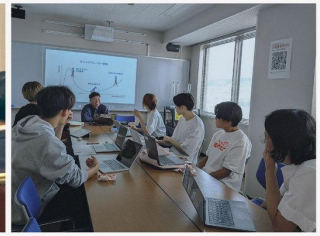


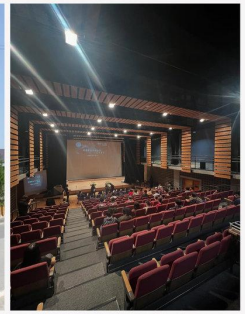
















OUR VISON

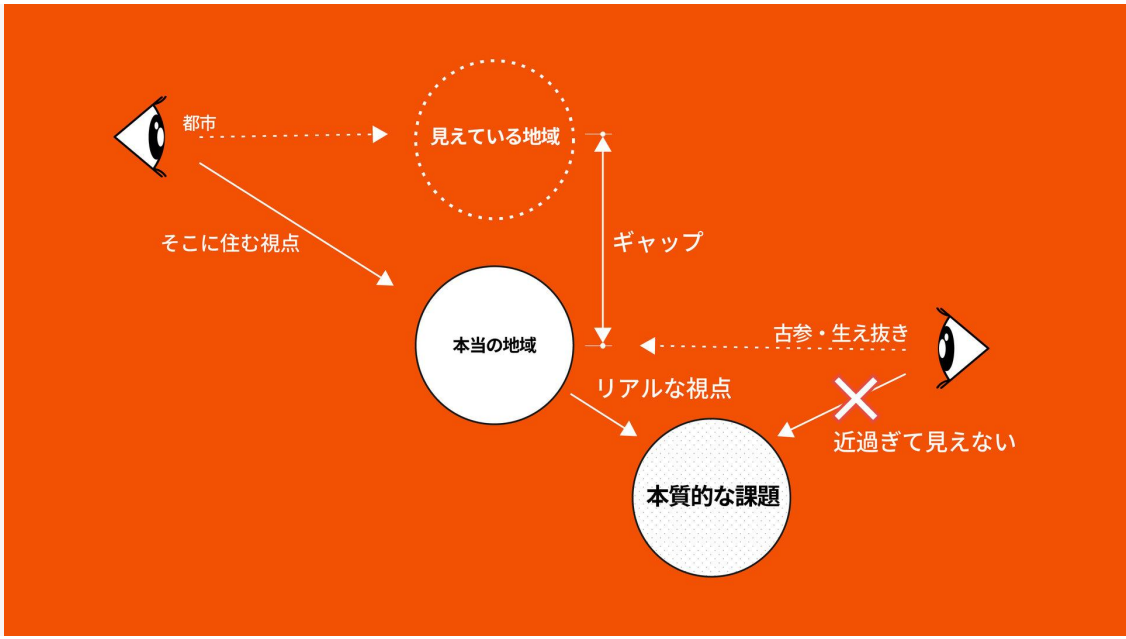
地域でやりたいことをやりたいように
そんな人がたくさんいる社会を

MISSION

地域の挑戦を、実現するため伴走する

TODAY'S FIRST QUESTION

あなたの公民館は
誰に必要とされてますか？



ISSUE

① 利用者の固定化・高齢化
② 時代に合った事業の不足
③ デジタル化への対応

I know that I know nothing

社会教育・公民館ド素人
地域の信頼ゼロ
外から来たヨソモノ
「私は知らないこと知っている。」

[ソクラテス 無知の知より引用]

CONCEPT

住民のアイデアをカタチにする
土着にやる

OPEN PIANO

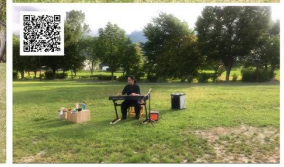
公園に誰でも自由に弾ける電子ピアノを置く。
ただそれだけの取組み。

毎日公園に出ていき、そこに出会った人に話しかける
「子どもがもっと自由に楽器に触れる機会があったら」
「フィジカルじゃなくても遊べるようなものが欲しい」









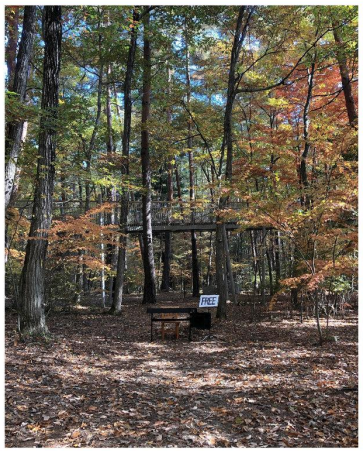
OPEN PIANO

公園に誰でも自由に弾ける電子ピアノを置く。
ただそれだけの取組み。

娘の電子ピアノが家にあった。企画書を書き１３日で実施
これまでに、３度ほど開催、おおよそ１日 40 組が利用
利用料はドネーション（要するに投げ銭）でご負担頂く
シンプルなモデルなので、他の施設でも開催されるように


公園にオープンピアノ
自由に触れて楽しんで
池田・松川ニュース
松川リンリンパークの公民館から
遅い春 高照山の桜満開
池田大峰高原も見頃


松川のリンリンパーク
自然の中でピアノ弾こう！
協力隊・松本さん 住民のアイデア 形に
にぎみぼん商品券



小さな鳥さんの写真展

中学生が公民館で写真展を企画・実施

「自分が撮影した鳥の写真で写真展をひらきたい」
制約や既成概念に捉われずアイデアをカタチに
企画から実施まで、整理整頓しながら伴走し実現






思い形に13歳の初写真展
中学生の夢 地域おこし協力隊員が伴走

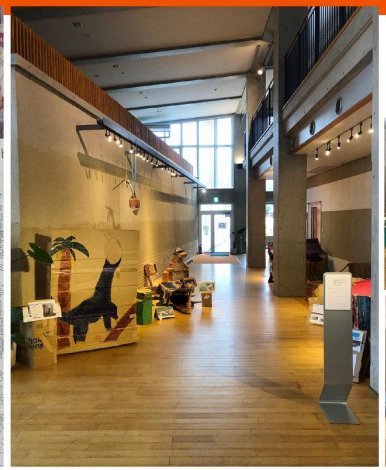

創造・発信の楽しさ感じて
クローズアップ

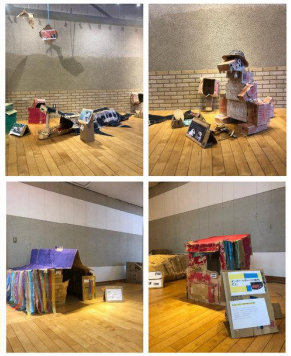
小学校と接続

小学生が写真展をきっかけに公民館に。
その後、授業でつくった段ボール製作を展示。

公民館をつかうという考えが芽生えたのか
学校の外での発表の場として活用がはじまる
オープンに場をひらく







遺影で Yeah!!!!!

不安を安心に変える。必要性を感じているが準備できてない
自分自身が納得する遺影を公民館で撮影する

長野県高齢化率は 33% を越え過去最高を更新中
「公的サービスとして遺影を撮るってどうかな？」
関係性のある年配者に聞いてみると予想しない声が



遺影で Yeah!!!!!

話題化する
地域の価値観がひっくり返る

「準備できてない。ぜひ撮りたい。」
「予約が始まったら１番に声かけて。」
実施までには色々なハードルがありました。
若い人間が死を扱っていて、けしからんの声も











遺影で Yeah!!!!!

撮影した遺影の一部で写真展を開催
合わせて撮影者人生初の個展も。

撮影していた空間に確かにあった空気感を
撮影者もはじめての個展
予定の場所が急遽使用できなくなったがあるもので工夫しながら







公民館の講座は
誰もが参加できるようにするものであって、
全員が参加したいと思う必要はない

ソフトボールピッチング教室

地域活動ナイターソフトボールのチームおよび参加者の低下
「一度。本物を見て学んでみたい。」の声が発端

本物の投球を見て学ぶ効果をすごく実感された
チームを越えて参加者同士の交流に
ニーズが見える化したことで上部組織が毎年開催することに








±50 白紙からの対話

村の昔の写真を白紙のテーブルに展示
多世代がテキストで対話する

写真館店主から「先代が撮影した古い写真がある。たくさんの人に見てもらえないか？」
「昭和の松川村」を切り取った貴重な写真をモチーフに【対話】が生み出されることを目指す
昔を伝えたい年配世代 × 昔の話をたくさん聞かされても分からない若い世代テキストなら対話できるのでは









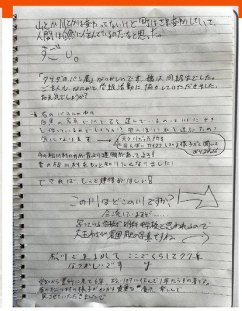
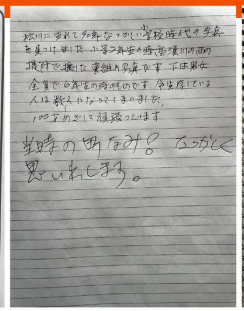
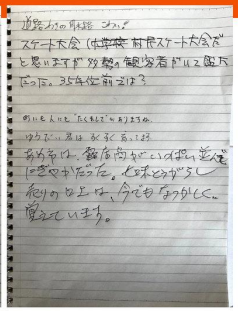



±50 白紙からの対話

村の昔の写真を白紙のテーブルに展示
多世代がテキストで対話する

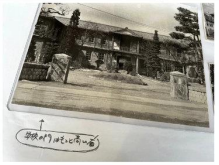
「古い松川村の写真」をモチーフとして企画構想
年配の世代と若い世代の多世代対話
フィールドワークの手法である『聞き書き』の手法を取り入れ









ゆるく柔らかい自治・越境を考える

村の昔の写真を白紙のテーブルに展示
多世代がテキストで対話する

「古い松川村の写真」をモチーフとして企画構想
年配の世代と若い世代の多世代対話
フィールドワークの手法である『聞き書き』の手法を取り入れ








源流回帰

自治の源流 公民館を再考する
目指すのは『公民館の再発見』

17 行政区役員が公民館への理解や社会教育観が一致していない
自治観が揃わず、運営がスムーズにいかないとの声を受け
そもそもを皆で学び直す講座を実施。実施後はモニターで啓発










巡礼公民館スマホ講座

旅の恥はかき捨て
地区の分館公民館を巡りデジタル道徳講座を

文部科学省 R5 年度 国民のデジタルリテラシー向上事業として実施
全 36 回の実施。のべ 122 名が参加
もちろん無料で実施するも「何か売りつけられると思った。」との声
学校に行けてない高校生もボランティア講師として巻き込み

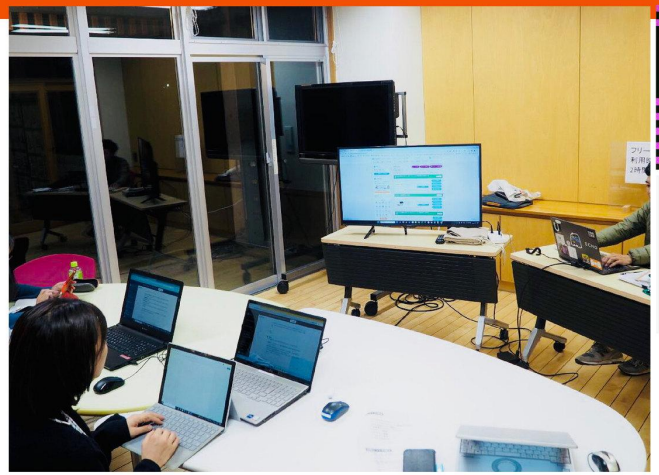



みんな同じで
みんな孤独

大人のデジタル講座

ミドル世代・大人向けのデジタルリテラシー向上を目的とした講座
普段、公民館で接する事のない世代へ「イマの学び」でアプローチ

そもそもの課題ヒアリングが難しい対象にどうリーチするか
一旦、講座を作ってみてニーズを探るために
これからの世代で対話しながらの「学び」の場をやってみた






第 77 回優良公民館表彰

住民のアイデアをカタチにする公民館







“聞く”アプローチ

「対話の場をつくる」のではない選択肢







サイコロ アイランド

https://note.com/jinzablou/n/n951fecd8c39a

「地域には安心安全が確保された対話の場がない」
「若者の居場所づくりが必要じゃないか」
長野県は若者の自殺率が高い。
うちの地域でもそういった事例は起きている。

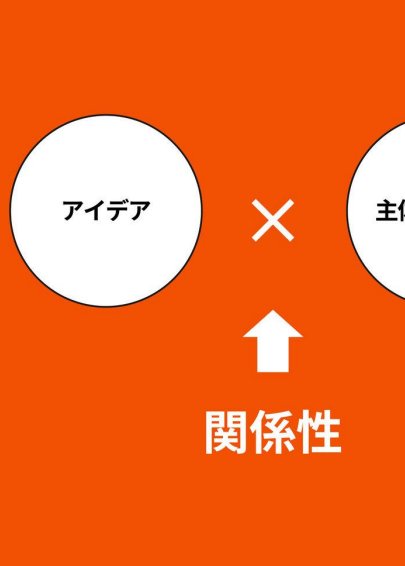
いくつもの “対話の場” や “居場所づくり” の取組みを見たり、関わる中で、
本当に必要な彼らには届いていないことを痛感してきた。
サイコロアイランドの対象になるのは、中高生をはじめとした若年層。

大人が「話を聞きます！待ってます！」と言っても、そもそも来ない。
当時の自分だったら、絶対行かない。ハードルが高すぎる。

地域内外の仲間でアイデアを出し合い
Podcast 番組を作る取組みをやってみることに









地域住民は、
解決したい課題を 心の奥底（インサイト）に持ってます
そして、それぞれ
“何らかアイデア”を持っている可能性が高い
話を聞き、そのアイデアをカタチ にすることで、
そこに対話が生まれます

『ニワトリが先か卵が先か』
と同じ話であるとは思うのですが。
そんな循環が生まれてくるために
一旦、アイデアをカタチにすることは極めて重要。
この循環が出来ると、話がしたいと
向こうから来てくれるようになりました。

信頼 = TRUST

まずは話を聞く
それを『見えるカタチ』に

その態度は
「引き受けている」と言えます。
結果として信頼され
次の対話に繋がっていく。

そこから、自らが
『やりたい事を やりたいようにやっている』
状態になっていく。それが続いていく。



【出典】：アトリエ葉　仕事日記

TODAY'S FIRST QUESTION

あなたの公民館は
誰に必要とされてますか？

TODAY'S FIRST QUESTION

あなたは
どんな公民館が必要？

自分ごとに翻訳する
Translate



【出典】：研究する南方熊楠

それぞれの生息域を行き来して
事実を理解します

ex. みんな違ってどうでもいい。忙しい。
誰も他人にさほど興味はない。

言葉を ”伝える” より
” 分かる ” に翻訳する

自分が出来ることだけではなく
クリティカルな手法（アプローチ）

正しいことは伝わりませんが
おもしろいことには
人が集まります

手放す（オープン）

管理からは一歩弾いて
信頼する

▲

『対話』⇄ 信頼



CONCLUSION

あそこに行けば
話を聞いてくれる
それだけで、公民館は必要とされる
極論、対話する人であればいい

CHAOS
カオス



ご清聴ありがとうございました。

今後も、デザインやデジタル・AI で
地域のお役に立てたら幸いです。
また皆さんと、お話し出来たらと思います。

